

新入社員宿泊研修会～いろいろな業種の仲間とつながろう～

1 趣旨

- 新入社員（会社組織、会社組織以外の法人、国・地方公共団体に今年度新たに所属した者）が希望をもち、社会人生活を送ることができるようにするため、社員同士の人間関係を構築するとともに、コミュニケーション能力を高める。
- 新入社員の環境保全に対する意識の向上を図る。

2 事業の概要

(1) 期間

令和5年8月7日（月）～8月8日（火）＜1泊2日＞

(2) 会場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 共催

大田地域人材確保促進協議会

(4) 協力

SANBE BURGER Founder 吉田 誠司 氏

(5) 対象

会社組織、会社組織以外の法人、国・地方公共団体の新入社員

(6) 参加者

18人 募集人数50人程度（応募：18人）

(7) 日程・研修内容

8/7 (月)	9:00	9:30	10:00	12:30	13:30	14:30	17:10	17:30	18:00	19:00	21:00	22:30
	受付・入所	オリエンテーション 開会行事	SAP ～集団・人間関係 づくりトレーニング～	昼食	講演「環境保全について」 吉田 誠司 氏	火起こし体験 薪割り体験	タケのこし	休憩・夕食	ファイヤーストーム 準備	ファイヤーストーム たき火語り	入浴・就寝準備	就寝
8/8 (火)	6:30	7:00	7:20	7:40	8:40	9:00	9:30	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00
	起床	朝のつどい	清掃	朝食・身辺整理	退所点検	ファイヤー片付け	課題解決型 ウォークラリー (雨天時) 課題解決型 室内オリエンタリング	昼食	カプラ	振り返り	閉会行事	解散

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

- 人間関係づくりのプログラムであるSAP（Sanbe Adventure Program）を1日目の午前中の活動に設定し、活動するグループの関わり合いを深めてから研修を進めるようにした。
- SANBE BURGER Founder 吉田誠司氏を招き、三瓶の自然や薪を使ったエネルギーの活用について講義をしていただき、参加者の環境保全に対する意識向上を図ることができる内容にした。
- まき割り体験では、三瓶山の原木を用いることにより、参加者が身近な自然に触れられるようにした。
- 2日目には、課題解決型ウォークラリーやカプラを実施し、グループや全体で協力する場面を多く設定することにより、参加者同士で自然にコミュニケーションが取れるように企画した。

(2) 運営のポイント

- 熱中症対策として、こまめに水分補給をする時間を確保した。
- 両日とも活動の後に振り返りを行い、参加者が気付いたことや感じたことを他の参加者と共有し、学びを深める時間を取り入れた。

(3) 広報のポイント

- 大田地域人材確保促進協議会と連携し、「大田市新入社員研修」の参加企業や市役所に広報した。
- 島根県教育センターと連携し、島根県内の2年目教員対象のフォローアップ研修の一貫として登録した。
- 島根県商工会連合会や広島県・鳥取県の商工会議所に広報を依頼し、参加者を募った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	93	7	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- ・教職以外の職種の方々と活動する中で、考え方や行動力で新たな学びがあった。
- ・1泊2日の短い期間でしたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- ・交流の場ができてとても楽しかったです。
- ・たくさんのプログラムを計画していただき楽しかった。SAPが少し長かった。
- ・研修生と関わる機会が多かった。

5 成果と課題

《成果》

- ・「研修生と関わる機会が多かった。」というアンケート記述や、活動の中で積極的に参加者同士で会話をする参加者の様子に見られるように、参加者同士が進んでコミュニケーションを取り合う機会とすることができた。
- ・「交流の場ができてとても楽しかったです。」というアンケート記述や、協力して活動に取り組む参加者の当日の様子に見られるように、新入社員同士の人間関係を構築することができた。
- ・学校にも広報することにより、7人の教員の参加があった。「教職以外の職種の方々と活動する中で、考え方や行動力で新たな学びがあった。」というアンケート記述から、教員の視野を広げる機会とすることができた。

《課題》

- ・参加者を多く集めることができなかった。新入社員研修として初めての顔合わせが行われる初夏辺りに時期を変更して、参加人数を増やしたい。
- ・環境保全に対する意識の向上についてのアンケート記述が見られなかった。研修プログラムの意図を明確にすることにより、参加者が課題意識を持って活動に取り組むことができるようにしたい。



(担当：企画指導専門職 其山 佳裕)